

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201490		
法人名	特定非営利活動法人 なごみの家		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	千葉県柏市正連寺380		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年の法人開設以来、私共グループホームが地域の一員として日々の生活を送れるよう努力しています。特に開設時に地域の方々が立ち上げてくださった「なごみの家を支える会」がホームでのコンサートや初釜、生け花、陶芸等を毎月数回開催して下さっています。近隣の農園も会の方々が維持、運営をしてくださり大変助かっております。私共も地域の一員として祭事に積極的に参加させていただいたり、地域で開催されている認知症の研修会等にアドバイザーとして参加させていただいています。資生堂様のご協力により「いつまでも美しく」を目指し毎月2回、お化粧品教室も開催しています。このように入居されていらっしゃるご利用者様のより良い暮らしの実現の為、地域の中に溶け込み当たり前の生活を安心して送っていただけるよう日々、努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームなごみの里」は、法人開設当初より地域住民による「なごみの家を支える会」が発足しており、行事・ボランティア・活動等、様々な協力を得ながら地域に根差した施設運営が行われている。協力医療機関における緊急時の連携・往診・医療面でのアドバイス等、手厚い協力体制を構築していると共に、終末期・看取りにおける方針を明文化し、医療機関・職員・家族と相談しながら希望に沿った支援が行えるよう体制を整えている。職員に対する研修を計画的に行っており、専門の有識者を講師に招き、より実践的な内容になるよう工夫している。食事・外出を重視しており、季節に合わせて、様々な企画・工夫を行っており、入居者の生活の活性化を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、スタッフ、ご利用者、ご家族がいつでも見れる場所に掲示しています。また、理念を元に研修やミーティングを行い、共有、実践できています。	「その人らしい暮らし」を主眼とした理念を掲げており、施設内に理念を掲示すると共に、パンフレット・ホームページ等に掲載し、周知している。また、会議・研修を通じて、全職員への理解を深めており、理念に基づいたサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より地域住民の方々が「なごみの家を支える会」を設立して下さい、ホーム内でのコンサートやイベント、地域でのイベントへの参加等に協力して頂いています。また、ご利用者と積極的に外出し地域の一員として日々生活をしています。	運営方針に地域との交流を掲げており、地域住民にて結成された「なごみの家を支える会」を中心に日頃から密な交流を図っている。地域行事への参加・地域の中・高校生の職場体験受け入れ・地域ボランティアの受け入れ等を実施すると共に、施設行事には、地域住民の参加・協力があり、地域と相互に支えあう関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が事業所にお越しになり自宅での認知症介護の仕方についての質問にお答えしています。また、地域での認知症ケアについての講演会や研修会に講師として参加させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの結果、ご家族からの要望でホーム内でのアニマルセラピーの開始や診療内容説明書の作成等、改善し実施しています。	柏市地域包括支援センター職員・地域住民・なごみの家を支える会代表・家族・施設職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、写真を交えながら施設の活動報告を行い、施設の理解促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市高齢者支援課、福祉活動推進課等には日頃からお世話になっており、定期的に面会等もさせて頂き良好な関係が築けています。	日頃から市に対して、業務における相談・報告等を行い、連携を図っている。また、柏市のグループホーム連絡会・介護事業者連絡会に参加し、連絡会を通じて、市と意見・情報交換を行っており、協働でサービスの質の向上に取り組む体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいます。	身体拘束排除における研修参加・マニュアル整備等を通じて職員へ理解促進を図っている。身体拘束を絶対に行わない方針を掲げており、入居者一人ひとりに合わせた介護計画を作成すると共に、希望に応じて、個別対応を図る等、入居者の自由を尊重した生活が送れるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加をしたり、ミーティングで話し合いを行っています。また、日頃から注意し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加をしたり、ミーティングで話し合いを行っています。また、必要性のある方には個別に対応させていただいています。法テラス等の紹介も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入居時の不安や疑問点にお答えしています。また、いつでもご相談頂ける様、苦情相談窓口及び質問要望窓口担当者を決め相談しやすい体制をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族、地域の方々のご意見はなによりも貴重なものと考えており、運営に反映し顧客満足度の向上に役立っています。	家族の訪問時・電話連絡時等を活用して、家族からの意見・要望等を確認している。また、地域住民や家族を行事に招待した際、意見等を確認する等、様々な意見を確認する機会を設けている。あがった意見・要望においては、会議・申し送りノート等にて職員で周知・検討を図り、適切な改善に取り組んでいる。その他にも、ホームページ・写真・施設季刊誌を活用し、家族に日々の様子を伝え、理解が得られるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談を定期的実施しています。また、いつでも相談できるような環境作りに配慮しています。	ユニット会議・施設会議・リーダー会議等を設け、職員・現場からの意見・要望等を確認している。現場の意見を反映させた改善にも取り組んでいおり、日頃から職員同士で意見・情報交換が行われており、情報の共有・サービスの質の向上を図っている。また、内部・外部の研修が計画的に行われており、適切な人材育成に取り組むと共に、有識者を研修に招き、施設のニーズに合った対策・知識の向上を図れるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム運営にはなによりもスタッフが大事である為、左記内容には常に努力しています。また、離職率の低さに表れてきていると思います。特に残業の基本禁止、有給休暇の完全消化を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での導入研修、認知症研修および柏市内にて講演会や研修会が開催されるように努めた結果、外部研修への多数のスタッフ参加も実現できました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に入会し、スタッフ交流研修会への参加や合同バス旅行（ご利用者、ご家族、スタッフ）、合同コンサート等で交流し、切磋琢磨することによりお互いのサービスの質向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のご利用者の不安感は計り知れないものであると思います。少しでも安心していただけるように隣に寄り添いながら昔話や不安感、これからの希望等に耳を傾ける時間を大事にしています。また、新規入居者を受け入れる時はスタッフを普段より1人多く配置しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時はもちろん、入居希望の見学時より信頼関係が築けるよう努めています。特にご家族は親を施設に預けてします後ろめたさや近隣の方々の目を気にしています。そういった柏市北部という地域性にも十分配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族に対して今何が必要なのかを模索するため、十分な聞き取りの時間をいただいています。その際、グループホーム入居がまだ必要ない場合は他のサービスを紹介、仲介しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なごみの里では共に暮らす第二の我が家をモットーに支えあいながらを何よりも大事に生活しています。人生の先輩であるご利用者から学ぶことは多々ありますし、家事や知恵袋には大変助かっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	パンフレットにもありますように「介護はプロに…心のケアは家族の笑顔と共に！」を実践しています。ご家族が来訪しやすい雰囲気作りや顔見知りのスタッフとの会話やイベントへの参加等により信頼関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のご利用者の知人はホームに来訪して下さっています。また、遠方の知人には定期的に電話や手作りの手紙にて交流を継続させていただいています。また、外出の機会を増やし思い出の場所や思い出の場所の記憶に繋がる場所への関係性も大事にしています。	友人・知人の訪問を随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮すると共に、家族との外出・外泊も可能で、家族関係の継続にも配慮している。また、地域行事への参加・施設行事への地域住民の招待・他グループホームとの交流等が行われ、馴染みの人との交流及び新たな関係の構築の機会となっている。職員と入居者がより多く会話ができるよう支援方法を工夫しており、入居者の嗜好・生活歴・思い等を引き出し、個々の習慣・生活歴に合わせたサービスの提供を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を築くため、スタッフは黒子に徹する場面も必要であることを十分に理解しています。また、ご利用者同士の関係性が構築できた時の看取りケアを体験し、これこそがグループホームでのケアの醍醐味ではないかと考えさせられました。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供後も知人をご紹介いただいたり、イベントへご参加いただいたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望をゆっくり聞かせていただく時間を十分に取らせていただいています。また、ご家族、ご友人等にも情報をいただきできる限りご利用者が求めるサービスが提供できる様、努めています。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、他事業所や医療機関から情報提供を受け、より詳細な情報を把握できるよう努めている。定期的に家族を交えた話し合いの場を設け、意向・ニーズの把握に努めている。また、日頃から入居者とのコミュニケーションを密に図っており、思いや生活歴等を把握しながら、本人の意向に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はグループホームでのケアに最も必要なものであると認識しています。今のご利用者、子供の頃のご利用者、恋をした頃のご利用者、子供ができた頃のご利用者、配偶者を喪失した頃のご利用者全ての時間のご利用者の顔をイメージできるように日々努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症は病的状態であり日々進行していく事をスタッフ全員がしっかり理解し、身体の状態と重ねて判断し、現在のご利用者には何が必要なのかを考え、把握しながらケアさせていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	左記の通り、その方にあったケアプランを作成し、ミーティングにて周知、徹底するよう努めています。	本人・家族の意向を確認し、職員間で話し合いを行いながら、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価を実施し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。計画作成後は、個別の介護計画を作成し、職員全員が入居者のニーズ・計画の内容を理解しやすいよう工夫しており、介護計画に沿った統一した支援を行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルにて毎日のご利用者の様子や出来事を記録し、以前の記録と見比べながら現在最も必要なケアプランが作成できるよう活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を踏まえ、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や自治会、ボランティア等のインフォーマルなものや社会福祉協議会や行政の保険外サービス等のフォーマルなサービスを必要に応じて活用させていただきながらご利用者が地域の一員として安心した生活を送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	左記の通り、支援しています。また、医師に24時間体制での協力をしていただいている為、ホームでの終末期ケアの実践が可能となりました。	内科・心療内科・歯科の往診を実施していると共に、希望のかかりつけ医への受診も可能となっており、適切な受診支援を行っている。また、緊急時や急変時には、医師に対して24時間連絡が可能な体制を取っており、搬送・処置などが適切に行えるよう対策を講じている。その他にも、救命救急講習や医療に関する研修に参加し、医療面・緊急時における体制を強化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	左記の通り、実践しています。また、個人情報の取り扱いにも十分注意しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師とホームのかかりつけ医との間での情報交換を蜜にいただいています。また、その結果を踏まえ、私共スタッフとご家族に情報提供をいただき最良の治療行為を選択させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から終末期についての説明はさせていただきます。特に延命や治療方針、最後を迎える希望の場所等細かく話し合いをしています。しかし、いざその時が近づくと心変わりもありますのでその都度、その都度話し合いを持ち、最良の形でその時を迎えられるよう努力しています。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族に同意を得ている。重度化・終末期の際には、医師と随時連携をとり、適切な支援を行うと共に、家族の宿泊が可能となっており、意向に沿った終末期・看取りを行えるよう配慮している。また、救命救急講習や医療に関する研修に参加しており、適切な処置・支援が行えるよう職員の育成を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急対応講座に参加させていただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の柏市グループホーム連絡会と消防署が共催で開催して下さる災害対策訓練とホームでの消防訓練にて対応しています。	施設は平屋建てとなっており、複数の避難経路が確保されており、火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、地域の消防署の協力のもと、タイムを計測しながら行い、適切な避難方法を確認している。また、設備点検や消火器訓練等も実施しており、非常時・災害時の対策を講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れずにご利用者のプライド、プライバシーに十分配慮しています。また、特に排泄や入浴等、本来は一人で行いたいがいしたかたなくスタッフの力を借りているというご利用者の辛々な気持ちを常々忘れないように心がけています。	プライバシー保護に関する研修の実施・マニュアルの整備等を通じて、職員全員への理解を促進している。全居室に鍵を設置し、プライバシーを確保すると共に、個々の生活ペースに合わせた支援を行っており、入居者の尊厳に配慮している。また、入居者の目線に立った言葉掛けや支援方法の検討を行っており、「その人らしい暮らし」と言う理念の実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なごみの里ではご利用者の自己決定権という考え方を研修で行います。洋服を選ぶ、洋服を着る順番、靴はどちらの足から履くのか、こんな自己決定権にもしっかり配慮してケアをさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天気や体調、気分等を大事に私たちが当たり前だと思っている、当たり前の生活に少しでも近づけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や洋服を一緒に買いに出かけたりしています。また、おじいちゃん、おばあちゃんではなく男性として女性として接するように配慮しています。特に認知症の高齢者は日々、自分の年齢が変化する方も多いため男性として女性として扱うことにより自然とおしゃれになられるご利用者も多数いらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しいものであるものとしっかり理解し、四季折々のもので食卓を飾れるよう支援しています。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けを共同で行っている。調理専属スタッフを中心に入居者の希望を取り入れながら献立を作成しており、入居者から好評を得ている。また、外食・行事食・出前等を企画・実施しており、季節や旬を楽しみながら食事できるよう配慮している。その他にも、ボランティア・家族・友人も一緒に食卓で食事する機会もあり、様々な食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記の通り、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最近の高齢者ケアでは口腔ケアの重要性が特に注目されています。私共も専門医の指導を受け、取り組んでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録に残し、スタッフで共有することにより、必要でないおむつの使用を停止しています。その結果、ご利用者の積極性が向上し、外出の機会が増えた等の事例が多数あります。NO39であるようにおむつをはずすことにより、よりおしゃれになると考えます。	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、おむつの使用を減らすこととおしゃれを楽しむ事ができるという考えのもと、使用頻度を減らすための工夫にも取り組んでいる。日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師や看護師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	

【千葉県】グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	左記の通り実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのご希望に添えるよう努めています。また、できる限り入浴を楽しんでいた為に最低限の介助に努め、一人でゆっくり入浴できるよう支援しています。	入浴においては、入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応している。入浴状況を記録し、適切な入浴機会の確保に努めている。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。その他にも、化粧教室の実施や整容支援を行っており、おしゃれをする楽しみも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間等、今までの生活リズムを崩さないように配慮しています。また、外出が続いたり等でお疲れ時にはゆっくりお休みいただけるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師が来訪して下さり、薬の効用や副作用について説明をしていただき情報をスタッフが共有し理解するようにしています。また、誤飲等が起こらないように専用の箱にて管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を大事に嗜好品、趣味等を大事にしています。気分転換にかなり頻度で外出にも出かけています。また、ホームでのコンサートや陶芸、初釜等は近隣住民の方々が「なごみの家を支える会」にて毎月数回実施していただきます。ご利用者同士で話し合い役割等が決まり日々を過ごしていただけます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なごみの里では外出に力をいれており、様々な場所に出かけております。ご利用者のご希望を聞き、水戸偕楽園や東京ドーム蘭展、浅草寺等。それ以外にも天気がいいから出かけましょうのような気軽な外出も非常に大事にしています。その様なご利用者の要望にお答えできるよう、スタッフの人数を手厚く配置しています。	日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出を支援すると共に、お花見・味覚狩り・地域の催し物等に出かける等、様々な外出活動を行っている。また、法人が運営するグループホームとの交流も随時行われており、入居者の生活の活性化につながっている。希望に応じて、調整しながら墓参りや親族の家への訪問等の個別支援も行っており、入居者の要望に答えられるよう努めている。その他にも、庭を活用してお茶のみや行事を行う等、戸外での楽しみを支援している。	

【千葉県】グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	左記の通り実施しています。高次機能障害等についての研修もホームにて行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各ユニットに専用番号を用意し、いつでも使用できるようになっています。手紙はご家族や友人に定期的に出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色合いは落ち着いた色でゆったりとした空間で安心した生活が送れるよう配慮しています。また季節に応じたパッチワークや生け花で季節感も演出しています。	施設は、平屋建てで、十分な介助スペースが確保されたバリアフリーの造りとなっている。リビングには、椅子・ソファ・こたつ等が設置されており、入居者が自由にくつろぐ事ができるスペースとなっている。季節に合わせて、雛人形等を飾り、四季を取り入れた温かみある施設作りがなされている。その他にも、パッチワークや地域のボランティアが定期的に活花を飾る等、季節感を感じながら過ごせる工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置や皆さんが集まる場から少し離れたスペースの確保等、思い思いに過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を持参いただき思い思いの居室にさせていただいています。また、ご家族やお孫様の写真の他、私共で外出時等に撮影した写真も額に入れて飾らせていただいています。	入居者・家族が馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。また、寝具の選択やテレビの持ち込みも可能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作りを行っている。その他にも、エアコンによる適切な空調管理や鍵の設置によるプライバシーの確保等、入居者が安全・快適に過ごせる設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性に最大限配慮をしながら「できること」の維持の為、必要で無いものの排除等に努めています。		